

## 2008年度 卒業論文講評

2009年2月 小関 隆志

### 荒木憲好「インターネットと犯罪予告」

2008年に起きた「秋葉原無差別殺人事件」は、東京・秋葉原の歩行者天国で男が歩行者を次々と殺害した、衝撃的な事件でした。インターネットの掲示板で男が犯行予告していたことが、この事件を際立たせていました。

荒木さんはこの事件に触発され、「インターネットと犯罪予告」をテーマに選びました。極めて現代的で、タイムリーなテーマ設定です。

インターネットが犯罪に利用されたり、他人に迷惑をかけたりすることに悪用されるケースが増えるに従い、何らかの対策が必要だということは分かっても、実際の対策はどうしても後手に回りがち。この論文は、その点を的確に描き出しています。

この論文が優れている点は、第一に、全体として極めて論理的な構成になっているため、説得力が高く、読み手に安心感を与えてくれるということです。

第二に、脚注がしっかりしています。言葉の意味や出典を詳しく明らかにしているので、このテーマについてあまり予備知識のない人でも理解できます。

このテーマは新しいだけに、情報収集も容易ではなかったと推察されますが、荒木さんは、インターネットや本を調べただけでなく、総務省の懇談会を傍聴したり、電話で問い合わせたりして、よく努力して情報を集めました。

今後も、インターネットを悪用した犯罪予告の例が増えていくでしょう。今後の成り行きを引き続き注目して行ってほしいと思います。